

お金の豆知識

日本銀行券の 愛称

日本銀行金融研究所貨幣博物館

●日本銀行券には、明治18年(1885年)に初めて発行された十円券から最新の二千円券に至るまで、発行されたお札を分類するため、旧十円券、D二千円券などそれぞれに固有の名称が付けられていますが、なかには、一般の人達から特別の愛称で呼ばれたものがあります。

「いのしし」…明治32年(1899年)10月1日に発行された甲十円券で、表面には称徳(しょうとく)天皇の皇位を護(まも)り、平安遷都(せんと)に功績のあった和氣清麻呂(わけのきよまろ)の像、裏面中央には彼の守護神である猪(いのしし)が大きく描かれています。このため、この十円札は「いのしし」の愛称で親しまれました。



甲十円券(裏)

「米国札(べいこくさつ)」…昭和21年(1946年)2月25日発行のA十円券で、表面の図柄が「米」「国」の2文字に見えるとして、この名前が付けられました。当時、「米」の中にある国会議事堂が十字架の牢屋に閉じ込められているように見える、「国」の字は菊の御紋が鎖に繋がれているように見える、などと話題になりました。



A十円券(表)

●また、日本銀行券の図柄の特徴をもとに、貨幣の収集家などから特別の名前で呼ばれているものもあります。主なものは、次のとおりです。

「大黒(だいこく)十円」…明治18年(1885年)5月9日に発行された最初の日本銀行券で、表面に福の神である大黒天(だいこくてん)の像が描かれています。続いて発行された百円、一円、五円札にも大黒像が描かれていることから、これら4種のお札は、まとめて「大黒札(だいこくさつ)」と呼ばれています。

「分銅(ふんどう)五円」…明治21年(1888年)12月3日に発行された最初の人物肖像入りの日本銀行券で、表面中央部の輪郭が金銀の計量に使う分銅の形になっており、この分銅のまわりにも小さな分銅形の模様がちりばめられています。

「めがね百円」…明治24年(1891年)11月15日に発行された最大の日本銀行券(縦130mm、横210mm)で、表面の枠の形が眼鏡に似ています。

「左和氣(ひだりわけ)十円」…大正4年(1915年)5月1日に発行されたもので、表面の肖像(和氣清麻呂)が左側に配置されている唯一の日本銀行券です。

和氣清麻呂と猪

コラム

猪は和氣清麻呂の守護神とされていますが、その由来についてみましょう。

和氣清麻呂(733~799年)は「忠義の英雄」として戦前の国定教科書に掲載されていました。清麻呂は称徳天皇に重用されていましたが、当時、天皇に寵愛されていた道鏡(どうきょう)がまさに飛ぶ鳥を落とす勢いを誇っていました。そして、ある時、道鏡一派の九州太宰府(だざいふ)の神官が、宇佐八幡(うさはちまん)のご神託として、「道鏡が皇位につけば、天下太平(てんかたいへい)となろう」と伝えてきたのです。



和氣清麻呂(733~799)

そこで、称徳天皇は清麻呂を宇佐八幡に出張させて神託を確認させたところ、「わが国では昔から君子(くんし)と臣下(しんか)は決まっている。臣下を君子とすることはない。」と、先の神託とは全く逆の内容を告げられたのでした。このため清麻呂は道鏡の怒りを買って、大隅国(おおすみのかくに)(現在の鹿児島県)へ流されることになりました。

清麻呂は大隅国へ行く途中で、皇位の安泰を祈願するため宇佐詣(もう)でをしようとしたところ、道鏡の手先に暗殺されそうになりました。その時、約300頭の猪が突然現われて、清麻呂の御輿(みこし)の前後を護衛しながら宇佐八幡までの道を無事に案内したということです。

なお、清麻呂をまつる京都の護王(ごおう)神社では、この話を基に「猪は清麻呂の守護神」として、拝殿の前に狛犬(こまいぬ)の代わりに雌雄2頭の猪を安置しています。これは、全国の神社の中で唯一という珍しいものです。